

## 2019MAPWiST & YWScamp への参加について（報告）

2019 年 8 月 10 日

システム安全ユニット 仁田工美

### 1. 報告事項

標題の国際会議に参加したので以下のとおり報告する

### 2. 出張期間

2019 年 8 月 7 日(水)から 8 月 10 日(土)

### 3. 出張先

大韓民国 ソウル市 梨花女子大学 (Ewha Womans University)

### 4. 概要

The Meeting of Asia and Pacific Women in Science and Technology (MAPWiST) 注 1) は、アジア太平洋地域の STEM における男女平等に向けた行動計画の「Map for Policy Development」の構築を目指している。2019 年の MAPWiST とともに、The Association of Korean Woman Scientists & Engineers (KWSE) が主催する科学技術の将来の女性リーダーのための年次学術会議である the Young Woman Scientist Camp (YWS camp) 注 2) に参加し、Group Metering Mentor 並びに Panel discussion に Paneler として参加した。

#### 注 1) MAPWiST

The Asia Pacific Nation Network (APNN) プログラムの参加者に呼びかけ、MAPWiST は、アジアおよび太平洋諸国の STEM におけるジェンダー平等に向けた行動計画の「Map for Policy Development」の構築を目指している。

この国際政策フォーラムは、ジェンダー平等の現状と政策についての議論と、アジア太平洋地域の STEM 専門家の主要な問題に関する国際調査の結果に関する情報交換を促進することを目的としている。

#### 注 2) YWS Camp

毎年、KWSE は、次世代の若い女性科学者および技術者の能力を育成および強化することを目的とした Young Woman Scientist Camp (YWS Camp) を開催し、年間を通じて Smart Sister Program を運営している。2012 年に開始された YWS Camp は、韓国に住む国内外の女性科学者および技術者、ならびにアジア太平洋地域の若手女性科学者および技術者のグローバルネットワークの構築、研究能力の強化およびグローバルリーダーシップ能力の育成のために実施している。

今回のテーマ

Looking back for a great leap forward

日本からの参加者（順不同、敬称略） 計 3 名

東京工業大学 修士 1 年 堤 志穂

東京農工大学 修士 1 年 深川あゆみ

1) 1 日目：8 月 7 日

レジストレーション及び主催者側と 9 日の日のパネルについて打合せを実施した。

2) 2 日目：8 月 8 日

本日は、午前中は invite lecture

lunch time は National Geographic がスポンサーの研究発表

午後一は学生たちのポスターセッション

午後二は Group Mentoromg

K-pop ダンス講座、夜は welcome dinner

と盛り沢山だった。

invite lecture は、韓国の研究者のインディゴブルーの研究についてとインドから韓国に留学し、PHD を取った方の韓国で過ごした日々とその後の現在までの研究の流れ、多くの Award を得て、現在の職を得ることができたのも、KWSE の支援があったからこそ、とのことであった。

スポンサー研究発表は、National Geographic からのファンドへの誘いと、そのファンドを使った、台湾の研究者の水問題に関わる研究と勧告の研究者の蜂の生態に大気汚染が関わっていることについての研究発表であった。

蜂の研究者は、来月出産予定とかで、その昔、出産予定 1 ヶ月前に九州まで研究発表に行ったことを思い出した。

午後は学生たちの研究発表で、日本からの発表者 2 人もがんばって説明をしていた。あらゆる分野の研究者の卵があつまる場合は、昨今の分野横断研究を鑑みると、なかなか意義深いように感じました。

ざっと周って見た印象では、やはりバイオテクノロジーに関わる研究者や物理や化学の基礎研究が多いように感じました。工学はやはり理学に比べると少ないように感じた。

Group Mentoromg では、Group9 の Mentor として参加した。30 年経っても、そしてどこの国では多少の差はあるにしても女性が科学技術の分野で生きていこうとするには、Gender Bias もあり、相変わらず悩みは変わらないように感じ、私のような シニアのがんばりが足りないのだな、とあらためて反省した。

3) 3 日目：8 月 9 日

午前中は、梨花女子大学長の挨拶や、歴代 KWES chair 等の Opening ceremony Plenary speech が二件

アジア開発銀行の Chief Thematic Officer から Women in STEM in the Asia Pacific: charting a gender transformative future と題しての講演で研究の STEP を重視した suggestion talk.

もう 1 件は、ヨーロッパと TV 会議をつないで、Policy Officer, European Commission の Gender Equality in Research and Innovation : the European Perspective と題した講演であった。

ランチの時間を使って、政府のファンドで KWSE が各国に依頼しているジェンダーに関するアンケート結果の報告や、今までの KWSE の活動の紹介が実施された。

午後は Policy Forum と題して 1 件は九州大学で学位を取られた原子工学の先生の台湾でのジェンダーイコーリティを目指した状況等であった。この方は、大変日本語が堪能な方で、講演後お話しして何の違和感もなかった。

もう 1 件はジェンダーとリーダーシップのコンサルタントの方からの韓国等の現状分析結果についてであった。

午後 2 の派ネスディスカッションはランチタイムに紹介されたアンケート結果を踏まえて、台湾、ネパール、モンゴル、そして日本の私、韓国、同じく勧告から KWSE の分析結果について各 15 分発表後、フロアからの質問を受けた。

1 件目の質問は、アンケートは韓国では英語で実施したのか、あるいは韓国語で実施したのか、という台湾の Twist 会長からの質問で、韓国では、母国語でアンケートを実施したとの回答であった。台湾では、英語のままアンケートを実施したため、回収率が低くなってしまったとのことであった。この議論には加われなかったが、日本では、JNWES のボランティアが英語→日本語訳を実施して、アンケートを実施しているため、優に 100 件以上の回答を得ることができたのだと確認できた。その後、立て続けにカナダの学生とおそらくパキスタンの学生から私指名で長々と質問があった。いわく、日本と韓国はなぜこんなにも理系に進む女性が少ないのか、結婚や出産が日本では妨げになっているのはいか、日本の長時間労働が問題なのではないか、などなど。

近年、日本も働き方改革で長時間労働を減らそうとしていることや、若い男性は、共働き希望と一緒に育児をしたいと思う人が多くなってきたこと、JAXA でも様々な制度で、ワークライフバランスを推進していることを伝えたつもりだが、どこまで伝わったか、といった感じです。

パネルディスカッションの後は、フェアウェルディナー（といっても簡単なビュッフェ）があり、学生さんたちへの表彰式が行われました。コスチューム、1 分スピーチ、ブース、フレンドシップ、ポスター様々な賞が用意され、学生たちの頑張りをたたえる仕組みはたいへん良いものだった。

3 件選ばれたポスターアワードに東京農工大から参加された深川あゆみさんが選ばれ

た。うれしい驚きであった。

以上